

時計台

関西学院大学図書館報『時計台』

2022 APR.
No.90



関西学院大学図書館報『時計台』No.90

巻頭言 図書館と初期衝動	大学図書館長 難波 功士	1
職業としての作家 —ナサニエル・ホーソーンの初版本をめぐって—	経済学部・言語コミュニケーション文化研究科教授 増永 俊一	2
教員らいぶらりいエッセイ (vol.3) 地理好き少年の成れの果て	関西学院大学名誉教授・前大学図書館長 田和 正孝	9
本学図書館貴重図書、Samuel Johnson (1709-84) の A Dictionary of the English Language (1755) について	教育学部・言語コミュニケーション文化研究科教授 谷 明信	10
バッハが読んだ『カロフ聖書』	院長・神学部教授 中道 基夫	14
私の電子資料活用事例 (vol.9) データベースReligions of America の魅力	法学部教授 大宮 有博	18
図書館こぼれ話 (15) 図書館をもっと活用してもらうために —大学図書館広報チームの活動紹介—	大学図書館運営課課長補佐 井上 昌彦	19
大学図書館の新型コロナウイルス感染症対策	大学図書館	20
大学図書館の展示紹介 (2020～2021年度)	大学図書館運営課	26
大学図書館の新しい取り組み 「AI活用人材育成プログラム×大学図書館」コラボレーション	大学図書館利用サービス課	28

(表紙 題字：山崎掃雪)

卷

頭

言

図書館と初期衝動

大学図書館長 難波 功士

私が「初期衝動」という言葉を意識したのは、2009年リリースの「ヒップホップの初期衝動」という曲を聴いたあたりからです。作詞は、作家業でも活躍のいとうせいこうさん。アメリカからヒップホップカルチャーが日本に伝わり始めた1980年代の、いとうさん自身の体験にもとづく歌詞でした。その頃から、人が何かの道に進んだ際に、その道に進むきっかけとなった人・モノ・コトを指して「初期衝動」という言い方が広まってきたように思います。

では、自分にとっての初期衝動は何かと振り返ってみると、いくつか候補は浮かんできますが、最初の一撃として思い至ったのは、小学生の時に市立図書館で借りた『安政五年七月十一日』という本でした。江戸時代の金沢城下で、米価の高騰に苦しむ町民が城近くの山に集結し、声を揃えて「米くれまいやあ 頼むわいやあ 中納言さんひもじいわいやあ」などと叫び、殿様の耳に届けさせようとした事件をもとにした児童文学でした。作者のかつおきんや（勝尾金弥）さんは、当時、石川県で教師をしつつ、地元の歴史や民話を題材とした創作活動を続けられていた方です。

小学校時代の最もインパクトのある読書体験が『安政五年七月十一日』だったことが、いくぶんは影響したのか、大学での専攻は日本近世史となりました。しかし、早過ぎる初期衝動はやはり息切れするようで、大学卒業後はまったく別の道に転じることになるのですが。ともかく小学生の時の一冊によって、私の22歳までは方向づけられていたような気がします。

そんなことを思い返して懐かしくなり、最近、Amazonで『安政五年七月十一日』を検索し、手ごろな値付けの中古本を購入してみました。届いた本を開くと、そうそうこんな話だったと約50年前の記憶はよみがえってくるのですが、やや違和感も覚えます。その本の奥付をみると、それはかつおきんや作品集の中の一冊で、1976年に発行されたものでした。小学生の私が手にしたのは、1970年刊行の初版本だったと思われます。それとはどうやら装丁等が若干違っているようです（1970年のバージョンは、おいそれと手が出せない値段でした）。

半世紀過ぎても頭でも、体でも、ある本のことを覚えている。そんな強烈な体験を与えてくれたのが、私の場合は図書館でした。

今後とも図書館が、若い人たちの初期衝動の場となればと、図書館長の職に就くにあたり考えた次第です。



難波 功士（なんば こうじ）

関西学院大学社会学部教授（メディア・コミュニケーション学専攻）。博士（社会学）。専門は広告史、文化社会学など。1993年、東京大学大学院社会学研究科社会学専攻社会情報学専修修了。（株）博報堂勤務を経て、1996年関西学院大学社会学部に着任、現在に至る。2022年4月から関西学院大学図書館長。最近の著書・共著書に、『広告で社会学』（2018年、弘文堂）、丹羽典生編著『応援の人類学』（2020年、青弓社）、阪本博志編『大宅社一文庫解体新書：雑誌図書館の全貌とその研究活用』（2021年、勉誠出版）などがある。

職業としての作家 ーナサニエル・ホーソンの初版本をめぐるー



経済学部・言語コミュニケーション文化研究科教授 増永 俊一

ナサニエル・ホーソン (Nathaniel Hawthorne: 1804-64) は、ソーロ (Henry David Thoreau: 1817-62) やメルヴィル (Herman Melville: 1819-91) と並び、19 世紀アメリカを代表する作家の一人である。19 世紀前半のこの時期に、アメリカは政治的にも経済的にも急速に国力を高めつつあったが、同時に政治経済のみならず文化的にもヨーロッパの影響から脱し独立しようとする気運がひととき高まった時期でもあった。

本学図書館には、ホーソンというこの時代を代表する作家による 4 つの作品の初版本を準貴重図書として所蔵している。代表作である『緋文字』(*The Scarlet Letter*, 1850)、『七破風の屋敷』(*The House of the Seven Gables*, 1851)、彼の最初の短篇集である『トワイス＝トールド・テイルズ』(*Twice-Told Tales*, 1837)、そして『少年少女のためのワンダー・ブック』(*A Wonder-Book for Girls and Boys*, 1852) それぞれの初版本である。

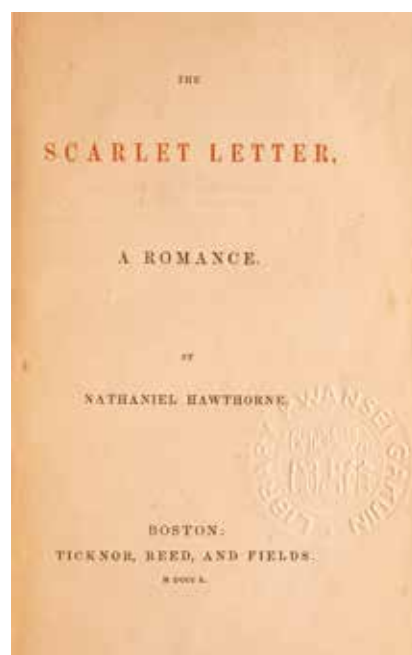
女のためのワンダー・ブック』(*A Wonder-Book for Girls and Boys*, 1852) それぞれの初版本である。



左から『緋文字』、『七破風の屋敷』、『トワイス＝トールド・テイルズ』、そして『少年少女のためのワンダー・ブック』の初版本



『緋文字』オリジナルの装丁と背表紙



初版タイトルページ

『緋文字』は、ホーソーンが残した作品としてあまりにも有名であるが、本館が所蔵している 1850 年の初版本は元々の装丁が傷み、堅牢な新しい装丁にやり替えられている。しかし、同書の巻末にはオリジナルの外装と背表紙が残されており、出版当初の装丁の色や風合いは知ることが出来る。この初版本で興味深いのは、この物語の書名、すなわち *Scarlet Letter* の文字だけがタイトルページで朱色になっていることである。緋文字は、この物語において主人公ヘスター・プリンが常に胸につけている懲罰の印だ。ピューリタン植民地において、姦淫の罪を犯した人物は、見せしめとして姦淫 (Adultery) の頭文字である「A」の文字を身につけておかねばならなかったとされているが、『緋文字』ではその文字の色が緋色となっている。初版本のこの朱色のタイトルは、この物語の特異なアイコンを読者に強く印象づけ、『緋文字』で繰り返されている罪と罰のドラマに対する期待をいやが上にも高めたに違いない。

『緋文字』はホーソーンが作家生命をかけて世に問うた力作であるが、作者自身の期待以上に広く読者に受け入れられた。売上げは好調で、発売からわずか 10 日で 2,500 部を売り尽くし、初年度で総計 6,000 部が売れ、翌年には 6,710 部を増刷して発売から 13 年間で 13,500 部が売れた。『緋文字』は成功作となり、ホーソーンはいよいよ職業作家としての地歩を固める。そして、『緋文字』の好評を背景にホーソーンは精力的に執筆活動に取り組み、翌年には早くも次作『七破風の屋敷』(*The House of the Seven*

Gables, 1851) を書き上げた。このときホーソーンは 47 歳。彼の 4 大ロマンスと呼ばれる代表的長編作品の内の 2 作目であるが、ホーソーンが作家としての円熟期を迎えていた時期に書かれた 2 作品の初版本を、本学図書館は所蔵していることになる。こうして、ホーソーンは作家として世間で認められ成功を収めたわけだが、ここに至る道のりは決して平坦ではなかった。ホーソーンが作家として生きていく道を思い描いた時期は、相当に早い。メイン州にあるボードゥン大学への進学に備えていた頃、ホーソーンは 17 歳で、当時メイン州のレイモンドにいた母エリザベスに宛てて次のような手紙を認めている。

僕は将来どの職業に就くべきかまだ決めていません。牧師になるというのは、勿論論外です。たとえ、お母さんが僕にあんな退屈な人生を選ぶことを願ったとしても、そんなことは思いたくありません。… 弁護士についてはすでにあまりにもたくさん居て、控え目に見積もってもその半数は食べていけていません。では医者はどうかという「究極の選択」(“Hobson's Choice”) のように思えるのですが、やはり人間の病や弱さによって生きていこうとは僕は思いません。… お母さんは僕が作家になるというのをどう思いますか、自らの筆によって生きる糧を得るのです。… でも、作家という輩はいつも惨めなもの(“poor Devils”)で、悪魔に連れ去られてしまうかもしれません。

(Salem. March 13th. 1821)



『七破風の屋敷』のモデルとなった又従姉妹スーザン・インガソルの旧宅、筆者撮影

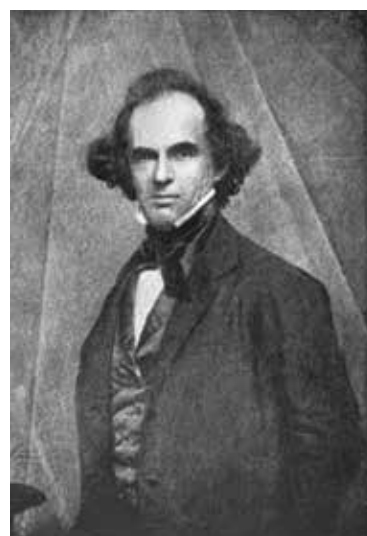
今日でも、小説家として成功を収めることはそれほど容易いことではないだろうが、19 世紀前半のアメリカにおいては、作家業が職業として成立することはさらに困難なことであった。当時は、余暇として読書に親しむという習慣がようやく大衆のものとなりつつあった時期で、文学市場の規模も今よりもはるかに小さかった。実際、ホーソーンは長らく文筆だけで生きていくことは出来なかった。結婚を前にしても十分な経済力もなく、ホーソーンのことを案じていた友人たちの助力によって 1839 年の 1 月にボストン税関に計量官 (measurer) として採用されて、ようやくソフィア (Sophia Peabody : 1809-71) との婚約にこぎ着けた。さらに結婚後も、生活のためにセイラム税関の検査官 (surveyor) として勤務することになった。『緋文字』の長い序文「税関」とは、かなりの部分がその時の体験を綴ったものなのである。結局、およそ 3 年に及んだ税関勤めも 1849 年の政変でその職を追われることになる。民主党のポーク (James Knox Polk : 1795-1849) に代わって、ホイッグ党のテイラー (Zachary Taylor : 1784-1850) が第 12 代アメリカ大統領に就任したのである。ホーソーンは、職業としての作家の道を目指しつつも、民主党政権下の官吏としてまずはその暮らしを立てていたのである。

話を少し前に戻そう。ホーソーンはボードゥン大学を卒

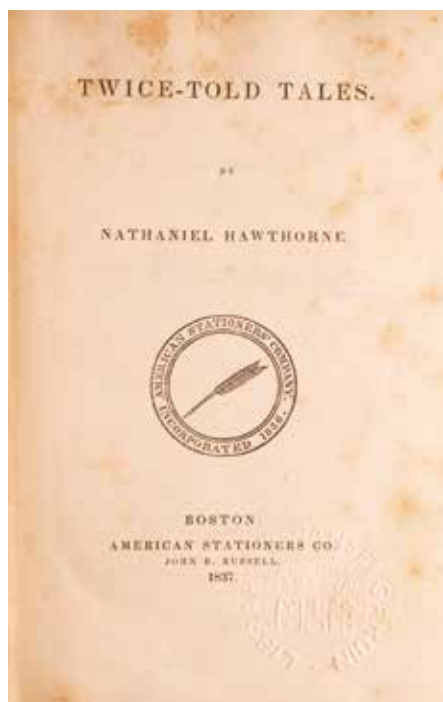
業した後、定職に就くこともなく故郷セイラムに戻り、自ら「陰鬱の城」(“Castle Dismal”) と呼んだ屋根裏部屋に引きこもって作家修業に明け暮れる日々を送った。以後 10 数年、読書と創作にひたすら打ち込み、短篇小説を書いては新聞や雑誌に匿名で寄稿している。『トワイス=トールド・テイルズ』とは、そういった短篇やスケッチを集めてホーソーンが初めて世に出した短篇集である。『トワイス=トールド・テイルズ』には、1837 年に出版された 18 編を収録する第 1 版と 1837 年版に 1 編を追加した 1842 年版、さらに同じく 1842 年に 20 編から成る第 2 巻の増補版が出版された。現在私たちが手にしている『トワイス=トールド・テイルズ』には、1842 年増補版の作品も含めた全 39 編の短篇が収録されていて、それに 1851 年にホーソーンが加えた「序文」が入っている。本学図書館が所蔵するものは、18 編だけが収載されているもっとも初期の初版第 1 刷である。当時の読者は、この 1837 年版で、たとえば週刊新聞の『セイラム・ガゼット』(Salem Gazette) の 1830 年 11 月 12 日号に掲載されていた「3 つの丘に囲まれて」(“The Hollow of the Three Hills”) の作者がホーソーンであることを初めて知るに至った。第 1 版所収の各短篇は、匿名ではあるがすべて雑誌や新聞、ギフトブックなどに既に発表されていた作品であった。「二度語られた物語」たる所以である。



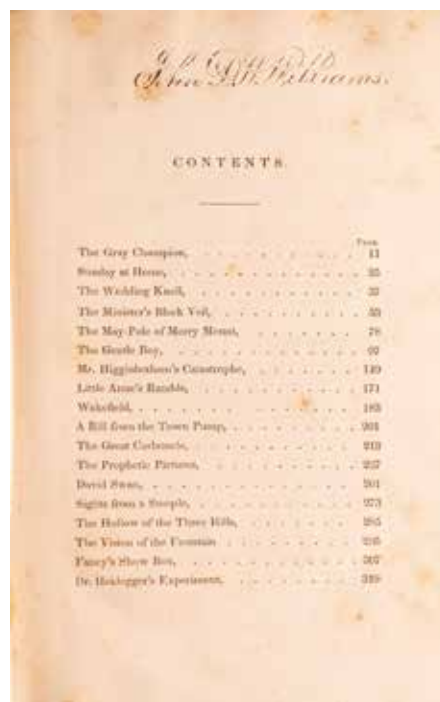
「セイラム税関」、筆者撮影



1848 年のホーソーン



『トワイストールド・テイルズ』初版
タイトルページ



『トワイストールド・テイルズ』初版
目次

ホーソーンは、もっぱら『緋文字』の作者として記憶されることが多いが、実のところ彼は短篇の名手で、数多くの作品を残している。とりわけ名作との呼び声高い「若いグッドマン・ブラウン」（“Young Goodman Brown” 1835）や「僕の親戚モリヌー少佐」（“My Kinsman, Major Molineux” 1832）も、大学卒業後の故郷セイラムでの作家修業時代に書かれている。先述の通り、この時期のホーソーンはすっかり屋根裏部屋に引き籠もっていたとの印象が強い。しかし、ある伝記作家は、そういった孤独な修業時代というイメージには少なからず「自己演出」（“self-dramatization”）が含まれているとしていて、実情よりはかなり誇張されているようである。実際、彼はこの修業時代にも社会との関わりが一切なかったわけではなく、姉のエリザベスもナサニエルはいつも社交的であったと述べている。ホーソーンは孤独な隠遁者では決してなかったのである。

『トワイストールド・テイルズ』初版に収録されている「大紅玉」（“The Great Carbuncle”）に注目してみよう。この短篇の副題は「ホワイト山脈の謎」（“A Mystery of the White Mountains”）となっているが、修業時代のホーソーンはセイラムを離れ、ニューハンプシャー州にあるホワイト

山脈に足を運んでいる。1832年の夏、ホーソーンはアメリカ北東部への長い旅に出た。ホワイト山脈はその時の目的地のひとつである。この旅行は、文学修行の日々の憂さを晴らすと言うこともあっただろうが、小説の題材となるものを探す取材旅行でもあった。ボードゥン大学時代の同級生で終生の友人であり、後にアメリカ大統領（民主党）となるピアス（Franklin Pierce: 1804-69）に、この旅行をめぐって次のような手紙を書いている。

僕は北部への旅の準備をしています。時おりしもカナダで忌々しいコレラが蔓延しているこの時期にです。ニューヨークを經由してオルバニーからナイアガラへ、そこからモントリオールとケベックに行き、そしてヴァーモントとニューハンプシャーを経て帰宅するというつもりでした。僕は、とある本のためにこの旅を実現することを切望しています。この本で（疑う余地もないのですが）とてつもない文学的名声（“literary reputation”）を得ることを目論んでいるのです。でも、カナダ行をやり遂げるまでは、書き始めることが出来ません。

（Salem, June 28th. 1832）



『少年少女のためのワンダー・ブック』初版の挿画
(左) 子供達に話を聞かせるブライト (右) ゴルゴンの首

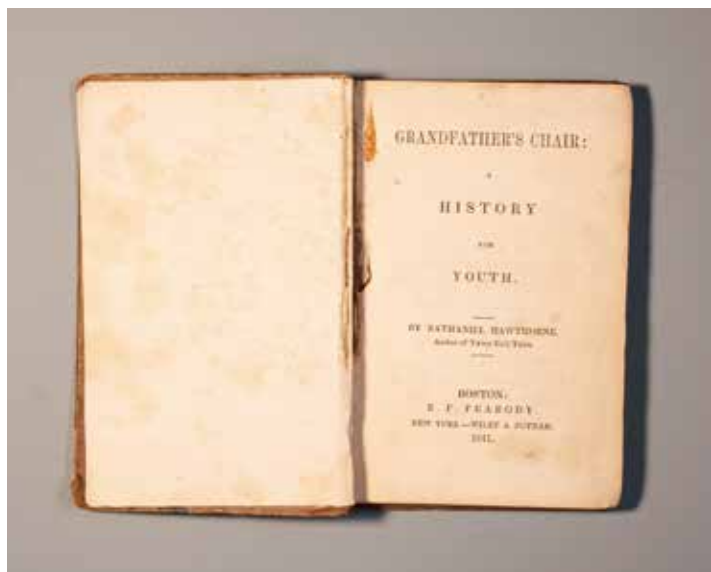
この手紙に明らかであるように、ホーソーンは常に作家としての成功を強く願っていた。しかし、彼が言うところの「文学的名声」を得るまでの道のりは遠く、隠遁生活を脱してソフィアと結婚してからでも経済的な困難は続き、『緋文字』でようやく作家として世間に広く知られるところとなった。

さて、本館所蔵のホーソーン初版本の中で『少年少女のためのワンダー・ブック』(A Wonder-Book for Girls and Boys)は、他の三冊とはまったく趣が違う。そのタイトルにすでに明らかであるが、これは子供を対象とした児童文学である。1850年に『緋文字』が出版され、1851年に次の長編『七破風の屋敷』が続く。そして、扉には出版年として1852年と記されているが、実際には1851年の11月に本作は出版された。『七破風の屋敷』出版からわずか7ヶ月後のことである。

ユースタス・ブライト(Eustace Bright)という大学生が、子供たちにギリシャ神話を再話として語り聞かせるというこの物語は、対象とする読者層も作風もすっかり異なっていて、

この変わり様は一見不思議に思えるかも知れない。しかし、子供に向けて作品を書くことは職業としての作家を目指していたホーソーンの構想にもともとあったことなのだ。

一連の児童向け読み物の中では、『おじいちゃんの椅子』(Grandfather's Chair: A History for Youth)が、ホーソーンが本腰を入れて児童文学に取り組んだ最初のものとなる。これは、アメリカの過去の出来事と歴史的人物について易しく解き明かす子供向けに書かれた歴史物語である。おじいちゃんは今、古い櫓の肘掛け椅子に腰を降ろしているが、この椅子の代々の所有者について子供達に語ることでアメリカの歴史を辿るというのがその趣向だ。添付写真に見られるように、この物語のタイトルページには出版年が1841年となっている。しかし、出版時期が年末に近い場合には翌年を出版年として記載するという当時の慣行もあって、実際の出版年は前年の1840年であった。『少年少女のためのワンダー・ブック』よりも11年前に本作は出版されていたのだ。



『おじいちゃんの椅子』初版本、筆者所蔵

児童向けの物語を書くことについて、ホーソーンはやはり
ボードウン大学の同級生で、19世紀を代表する詩人であつ
たロングフェロー（Henry Wadsworth Longfellow: 1807-
82）に宛てて、次のような手紙を書いている。

生活のためには、書き散らかすしかほとんど見通しが立
たないのです。しかし、あなたが思うほど、このことで
私が苦勞しているわけではありません。私は、子供向
けの本などの、どんな類のやつつけ仕事（“all sorts of
drudgery”）にも筆遣いを変えることが出来るのです。

（Salem, June 4th. 1837）

さらに翌年、ホーソーンは再度ロングフェローに次のよう
に、熱烈に書き送っている。

日曜日の夕食にあなたがお見えにならなかったのは残念
でした。というのも、この前お会いしたときにあなたが話
しておられたおとぎ話の本について、お話をしたかったか
らです。良い考えだと思いますし、時間があればの話で
すが、これの実現に向けて私の役目を果たしたいという
気持ちに傾いています。数ヶ月前よりは、より実現可能な
ことのように思えます。とはいっても、雑誌の雑文執筆に

常に悩まされていることに変わりはなく、更には子供向け
の歴史やそういった類のよからぬことに手を染めてみない
かと二カ所の違う方面からの提案も受けています。しか
し、私にはあなたの本の方がずっと信頼に足るものにな
るように思えますし、おそらく儲けも多いことでしょう。そ
して、他の仕事の妨げになることもありません。多分、私
たちは大ヒットを飛ばし、児童文学（juvenile literature）
の全体系に大変革を引き起こすことになるでしょう。

（Salem, March 21st. 1838）

ロングフェローに宛てたこれらの書簡からは、生活のた
めには子供向けの本でも書かざるを得ず、本来めざしてい
た高級な文芸小説で身を立てると言うことが現実的に困難
な状況にあったことが浮かび上がる。一方で、手掛けるか
らには革命を引き起こしてやるという野望もまたホーソー
ンにはあった。しかし、そういった実利を超えて、ホーソー
ンは子供を対象に物語を書くということ、あるいは子供とい
う存在に対して格別の思いを抱いていたようだ。『トワイ
ス＝トールド・テイルズ』初版には、「アニーちゃんのお散歩」
（“Little Annie's Ramble”）というスケッチも収録されてい
るが、この小品で子供に注がれているホーソーンの眼差し
はとても温かい。



『おじいちゃんの椅子』、『少年少女のためのワンダー・ブック』
並置、サイズ、体裁比較

ホーソーという『緋文字』がその典型だが、罪と罰、疎外と孤独、白とも黒ともつかず怪しくうごめく人間の心模様といった独特の作品世界が多くの読者の心を捉えてきた。そして、その作風に引きずられるかのように、ホーソー自身も孤高の芸術家であったかのような印象は強い。しかし、それらは作家のモチーフであることは確かだが、一方で職業として作家の道を模索するひとりの十九世紀人であった事もまた事実なのである。先述の『おじいちゃんの椅子』は、ホーソーの義理の姉にあたるエリザベス・ピーボディ（Elizabeth Palmer Peabody: 1804-94）の経営する書店から出版され、ほとんど私家版と呼んでも良いような本であった。大きさは、縦 12.5cm、横 9cm、厚さわずかに 1cm のささやかなものである。本館所蔵の『少年少女のためのワンダー・ブック』初版本と並べてみると、大きさも本の見栄えも相当に異なっている。この違いは、ホーソーの作家としての成長の軌跡でもある。

『緋文字』の序文と呼ぶにはあまりにも長大な「税関」は、作家への想いを抱いたままセイラム税関の官吏として勤めるホーソーの日々の姿を映して読み飛ばすわけには行かず、『七破風の屋敷』の妙に明るいハッピー・エンディングは、作家修業時代のホーソーがモデルとなった屋敷で友人とトランプ・ゲームに興じていたと言うこととひょっとすると関係するのではないかという妄想も浮かぶ。当初はその理

念に共感して参画したユートピア的共同体のブルックファームは結局深い失望に終わったが、その挫折の体験が 4 大ロマンスの第 3 作目にあたる『プライズデイル・ロマンス』(*The Blithedale Romance*, 1852) に結実する。1853 年、友人のピアスが晴れて第 14 代アメリカ大統領に就任し、選挙活動におけるホーソーの貢献への論功行賞としてリバプールの領事として渡欧することがなければ、最後のロマンス作品の『大理石の牧神』(*The Marble Faun: Or, The Romance of Monte Beni*, 1860) は書かれなかった。本学図書館が所蔵するホーソー初版本の佇まいからは、職業作家としての彼の歩みがどことなく浮かび上がってくる思いがする。

最後に蛇足をひとつ。本稿に載せたセイラム税関の写真は、2014 年 7 月 4 日に撮ったものである。7 月 4 日はアメリカの独立記念日であるが、写真の撮影日からちょうど 210 年前のこの日、ナサニエルは同地セイラムのユニオン通りで産声を上げた。

増永 俊一（ますなが としかず）

関西学院大学経済学部・言語コミュニケーション文化研究科教授。関西学院大学文学研究科博士課程後期単位取得退学。関西学院大学博士（文学）。日本ナサニエル・ホーソー協会元理事。アメリカ 19 世紀文学・文化を研究の対象とし、同時期にアメリカで広まったツーリズムにも関心を寄せている。著書に、『アレゴリー解体—ナサニエル・ホーソー作品試論』（英宝社、2004）関西学院大学研究叢書第 108 編、編著に『アメリカン・ルネサンスの現在形』（松柏社、2007 年）、共著に『隠された意匠—英米作家のモチーフと創造』（南雲堂、1996）、『異相の時空間—アメリカ文学とユートピア』（英宝社、2011）等がある。



地理好き少年の成れの果て



関西学院大学名誉教授・前大学図書館長 田和 正孝

60年近く前になってしまった。まだ白黒テレビが隆盛の頃、今でいうバラエティーが大好きな「てれびっ子」の私にも、もう一つの楽しみがあった。それはNHKの「新日本紀行」と「海外特派員報告」という番組であった。月曜日と火曜日のいずれも7時半から始まった。

安月給のサラリーマン家庭で育ち、しかも両親とも大阪出身であることから、夏休み前に友達が話す「田舎へ行く」ことの意味すらわからなかった。羨ましさも手伝って、見知らぬ日本各地の様々な風景に吸い寄せられた。中学生になって兵庫の城址や城下町を訪ねるようになったのはその影響かもしれない。海外に行くとは、視聴者参加のクイズ番組の予選を勝ち抜き、本選で優勝を遂げて「夢のハワイ」を手に入れることくらいしか想像できなかった。周りには外国旅行経験者などほとんどいなかった。

中学や高校の図書館では、文学にはめっぽう弱かったが、刊行された特派員報告書は片っ端から読んだ。内容を今はまったく覚えていない。脈絡のないまま、台湾へ導入された蓬莱米のこと、東欧の報告に合わせて「プラハの春」の新聞記事をくまなく読んだことが、記憶の中からふと現れることがある。大学で地理学を教え、国内外の小規模漁村を調査研究する身となる芽生えは、このようなところにあったのかもしれないと考えると、ちょっと気恥しい。

長く務めた教員生活も明春には定年を迎える。今は、研究室にあふれる書籍のそれこそ「断捨離」である。口惜しいが、かりそめの苦屋のような我が家には持って帰れるだけのスペースはないし、研究をしたとしても10年も続けられるか、それも心もとない。幸い、友人と教え子がずいぶん引き取ってくれた。本を託し、本が生き永らえるには最高の場所が確保された。あとは自分の責任である。

最近、何人もの同僚に、退職後の生活を尋ねられる。できれば、これまでに世話になった調査地に赴き、漁業者の皆さんにお礼を言い、旧交を温めるような旅をしたい、と答える。さしずめ「漁村行脚」というところか。

背文字を眺め、意を決して「廃棄」と記した段ボール箱に放り込む。しかし、探検・冒険にも映る、地理学者の書いた地誌や人類学者の民族誌には、読んだ時に抱いた高揚感が蘇り、自身のフィールドでの経験も重なって、整理の手が止まってしまう。もう一度同じ文章を追いかけてみたい。これらは「自宅持ち帰り」の箱に詰める。嬉しいことに、「書物行脚」も退職後の生活に加わった。

※このエッセイはご在職中の2021年度にご執筆いただきました。なお、ご著書の『石干見の文化誌－遺産化する伝統漁法－』昭和堂、2019年は、2021年度 人文地理学会 学会賞（学術図書部門）を受賞されました。

本学図書館貴重図書、Samuel Johnson (1709-84) の A Dictionary of the English Language (1755) について



教育学部・言語コミュニケーション文化研究科教授 谷 明信

本学図書館貴重図書、サミュエル・ジョンソン (Samuel Johnson (1709-84)) の英語辞典 A Dictionary of the English Language (2巻, 1755年刊, 二折り判) 初版は、英語最大の辞典 A New English Dictionary (現在の The Oxford English Dictionary) に先んじる最も重要な辞書として有名である。本稿では歴史的背景を述べたのち、本辞典を概観する。



図1 A Dictionary of the English Language (1755)
および 簡約版 (1756) <復刻版>

1. ジョンソンの『英語辞典』が編纂された 時代背景

英国では17世紀のピューリタン革命や名誉革命が終わり、議会政治のもとで立憲君主政が確立し、市民社会の原則が形成されつつあった。18世紀にかけて、貴族中心の社会から市民の時代へと変化してゆく。

18世紀のヨーロッパは、安定や規則性を求め、理性を信頼する啓蒙主義の時代であった。英国では18世紀前半ホイッグ党指導者の首相ウォールポールが長期政権を維持し、社会的安定と経済的繁栄をもたらした。また、覇権がオランダから英国に移り、商業国家になってゆく時代でもあった。これが教育・文化の普及に貢献し、読者層と出版の拡大に繋がった。

文化的な面では、17世紀からコーヒーハウスが流行した。また、初の日刊新聞が1702年に発刊され、『タトラー』(1709-11)や『スペクテイター』(1711-12, 1714)といった雑誌・日刊紙も創刊された。雑誌・新聞がコーヒーハウスで回覧され、階級の異なる市民が政治・商売・文芸を論じた。また、会員制図書館や巡回貸本屋も登場した。こういった社会的背景が、ジョンソンのものを含め英語辞書の需要を高めた。

2. ジョンソンの『英語辞典』の背景にある 英語の状況

1066年のノルマン人によるイングランド征服により、イングランドでは英語とフランス語の二言語が使用されるようになった。支配者層はフランス語を用いた。フランス語との競争に勝利し、英語が確固たる地位を確立したのは14世紀後半になってからである。15世紀前半に書き言葉の標準語がロンドンの官庁語に基づき成立し、以前は方言で書かれていた英語が標準化され始めた。同時に、様々な分野で英語がラテン語やフランス語に取って変わり始めた。1476年にカクストンがイングランドで印刷を始め、書き言葉の標準語を広めるとともに、英語の綴り字の固定化が進み始めた。

16世紀にはルネサンスが到来し、人文主義のもとラテン語・ギリシア語の多くの書物が英語に翻訳された。この過程で、英語には語彙が不足し、古典語のような洗練さを欠く粗野な言語であるという劣等感を教養人は抱いた。翻訳

を通して古典語から多くの語を借用し、英語の語彙が豊穡になったと自信を持ち始めたのは16世紀末であった。英語に対する自信はできたものの、シェークスピアの英語のように、文法・語彙の面で余りに自由で、統制する文法がなく、語彙も未整理であると不満を抱く識者もいた。また、綴り字の統一もされていなかった。つまり、英語の標準化はまだ完成していなかった。

一方で大陸に目を移すと、イタリアとフランスではアカデミーが1582年と1635年に設立され、国語を確立しようと『クルスカ・アカデミア辞典』（1612）、『フランス・アカデミー辞典』（1694）が刊行された。綴り字・語彙などに問題を抱えていた英語を整理するために、イタリアとフランスに続き、英国でも同様のアカデミーを設立しようという意見が出た。ドライデン、デフォー、アディソンのような文人もアカデミー設立を唱え、1712年には『ガリバー旅行記』で有名な作家スウィフトが『英語を正し、向上し、確定するための提案』を出版した。この構想には国語を確定するための辞書出版の企画も含まれていた。このようにアカデミー設立と辞書出版の機運は高まったが、そのような意図を持った辞書の出現は1755年のジョンソンの英語辞典を待たなければならなかった。

3. ジョンソンの『英語辞典』以前の辞書

英国では古くからラテン語に対する英語による語注解（glossary）が存在した。ただ、辞書と呼べるものが登場したのは15世紀で、英羅辞典であった。その後、16世紀にはルネサンスや交易の拡大により、ラテン語・ギリシア語・フランス語・イタリア語・スペイン語などの外国語辞書が出版された。

一方、英英辞典の編纂は17世紀に始まった。16世紀ルネサンス期に古典語から借用された学術的で難解な語が増加し、その解説が必要となったためである。

最初の英英辞典は1604年に出版されたコードリイのA Table Alphabeticallである。収録語数は約2,500語で、難語を解説する辞書であった。これ以降17世紀中に英語辞書は数点出版されたが、いずれも難語辞書であった。それに対して、一般語を定義する一般辞書が登場するのは18世紀になってからである。

最初の一般辞書はカーシーが編纂したA New English

Dictionary（1702）である。その後、カーシーに範を取るバイリーのAn Universal Etymological English Dictionary（1721）が刊行され、ジョンソンの辞典が出版されるまで最も人気を博した。この辞書は日常語を含む4万語を収録し、語源、難語、固有名詞、格言、方言を解説する。1727年に出版されたこの辞書の補遺である第2巻は、エジプト・ギリシア・ローマの神話学の用語などを取り扱う。これらの辞書に基づき1730年にバイリーはDictionarium Britannicumを出版したが、その第2版（1736）は様々な分野の語彙を含め60,000語を超えるまでに収録語数が増加した。このように、17世紀の辞書は難語解説と百科事典的情報を備えていた。この特徴は古典語の素養のない階層を意識してのことであったという。

4. A Dictionary of the English Language（1755）について

先に述べたように、英国でもアカデミー設立やそれに関連して国語確立のための英語辞典の出版が唱えられていた。そのような状況の中でジョンソンが登場した。

ジョンソン（Samuel Johnson）は文人として悲劇や諷刺詩や紀行などの作品や「マクベスの悲劇に関する諸考察」（1745）の論文を出版し、名を揚げていった。その能力を認めたドズリーら数名の出版業者からジョンソンは辞書作りを依頼され、1746年に契約した。ジョンソンは1747年8月に『新英語辞典計画書』を公表し、6名の書記（うち5名はスコットランド人）を雇い、編集作業を始めた。1748年8月には語句の説明のための用例収集作業がほとんど完了した。1753年4月には第一巻の本文が完成し、1754年夏に編集作業がほぼ終了した。そして、計画から8年後の1755年4月15日に二折判2巻、約2,300ページの大辞典が刊行された。初版は2,000部刊行され、価格は4ポンド10シリングであった。しかし、元版であるこの二折判よりも、1756年に刊行された廉価な八折判の簡約版の方が普及した（大きさについては図1を参照）。

助手がいたとはいえ、ほぼ独力で8年足らずで刊行したことは驚嘆に値する。イタリアやフランスではアカデミーがおこなった仕事を、ジョンソンは個人でおこなったのである。

この辞書の刊行により、それまでのアカデミー設立の議

論は止んだ。つまり、ジョンソンの辞典が綴り字や語の意味の確定、語法上の正用法の問題などを解決し、国語を確定したと世間で受け取られたことを示す。

では、ジョンソンの辞典の特徴はどのようなものであろうか。17世紀までの辞書は百科事典的な性質を強く持つものであった。このため、ベイリー（1736）は約 60,000 語を収録する。対照的に、ベイリーを下敷きとしているものの、ジョンソンの辞典は収録語数を約 40,000 語に絞り、その目的は語の正しい用法と意味について判断を示すという、語学的なものであった。

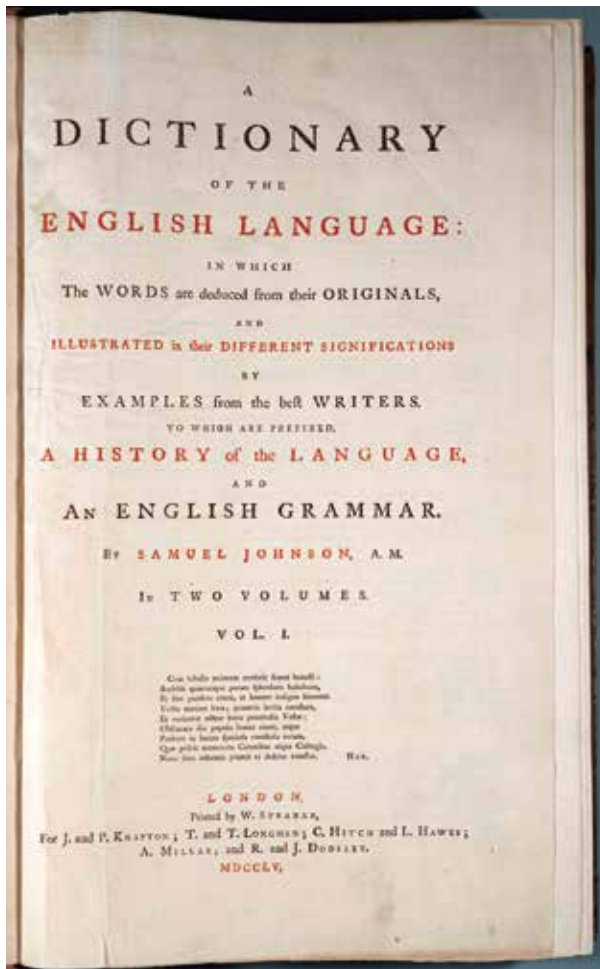


図2 タイトルページ

語の定義は類義語による記述ではなく、組織的な意味の分類をおこなった（後述の TAKE の例を参照）。さらに、意味は用例により例証している。このことは、図2の『英語辞典』のタイトルページに ILLUSTRATED in their DIFFERENT SIGNIFICATIONS BY EXAMPLES from the best WRITERS「意味別に、最良の作家からの用例により説明する」と書かれてある通りである。引用につ

いては、シドニー（1554-86）から王政復古（1660）の間の数百の作家、作品からの用例をほぼ年代順に挙げている。特にシェークスピアについては 17,000 以上の用例が引用されている。なお、綴り字については保守的で、慣習的なものが採用されたことが知られている。



図3-1 他動詞 TAKE のページ

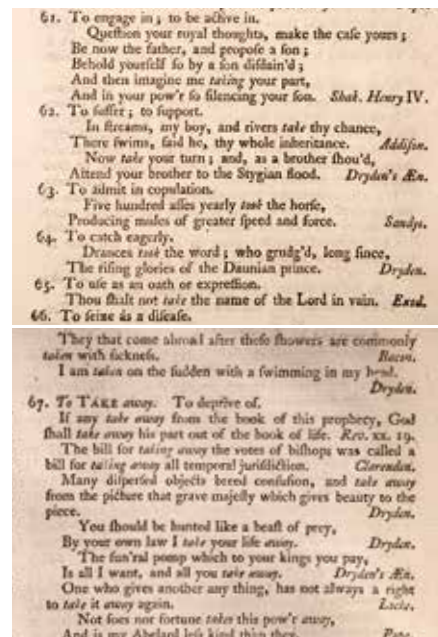


図3-2 他動詞 TAKE 定義の部分（拡大）

一般辞書であるジョンソンの辞典は当然、基本語を扱う。実は前置詞、接続詞のような文法語や基本語は多義で定義が難しく、辞書編纂者を悩ませる。このような語にもジョンソンは十分に配慮を示す。図3-1, 3-2, 3-3の動詞 TAKE については、他動詞と自動詞の二項目に分け、他動詞を 66 の語義に分類し、そのあとで take away や take place のような句動詞や熟語を 47 項目挙げ、全体では 113 の項目から成る。一方、自動詞は語義を 4 つに分類、17 の句動詞を挙げ、全体で 21 の項目を挙げる。このように、句動

詞・熟語にも十分に注意が払われている。To TAKE [...] to lay, hold on, to receive とだけ定義するベイリー (1721) と比較すると、ジョンソンの辞典が基本語と詳細な語義分類を重視する姿勢は明らかである。同様に、cat に関しては、ベイリーは「よく知られた動物」と定義するのに対して、ジョンソンは「鼠を捕まえる飼ひ慣らされた動物。博物学者はライオン種の最下位の分類と一般的に見なす」と当時の科学上の分類も参照して、定義を試みている。

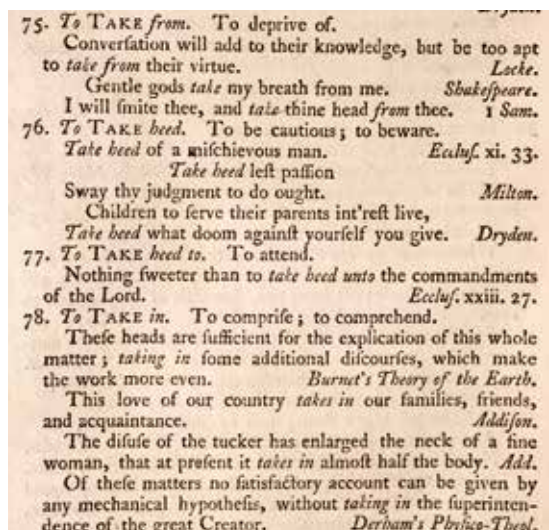


図 3-3 他動詞 TAKE 句動詞・熟語の部分 (拡大)

さて、ジョンソンの辞典の定義には個人的な主張が出ている場合があると言われる。有名なのは、図 4 の OATS「エンパク (燕麦)」は、「穀物の一種、イングランドでは通常馬に与えられ、スコットランドでは人を養う」と定義される (定義中の *horfes*, *supports* のように f に見える文字は「長い s」と呼ばれ、s を示す古い文字)。この定義はジョンソンのスコットランド嫌いを示すと言われることがあるが、実際には 5 人のスコットランド人書記を雇い、辞書中でもスコットランドの用法と比較する箇所が多数あるため、この定義は書記たちに対する親しみを込めた皮肉と取る方が良さそうである。

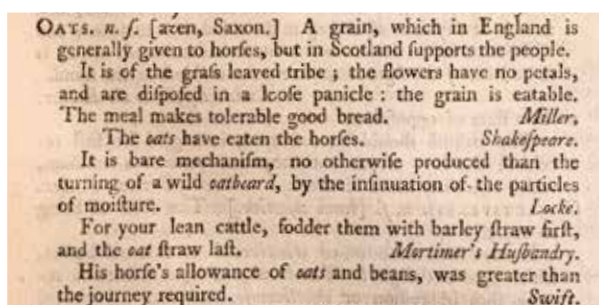


図 4 OATS の部分 (拡大)

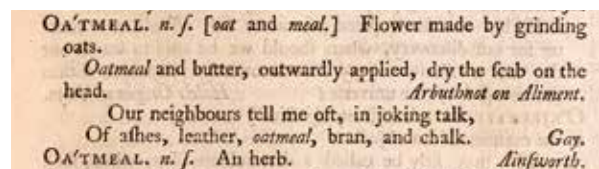


図 5 OATMEAL の部分 (拡大)

ジョンソンの辞典が綴り字の確定に役割を果たしたと述べたが、現代と異なる点もある。図 5 の OATMEAL「オートミール」の定義中の *flower* がそうである。これは現代英語では *flour* (「穀粉」) という綴りの語である。*flower* と *flour* とは元々同一の語で、18 世紀まで綴りに揺れがあった。なお、ジョンソンの辞典では *flower* の綴り字しか収録されていない。いずれにせよ、ベイリーの辞書と比較すると、ジョンソンの辞典は現代の英語辞書と類似点が多い。なお、ベイリーらの辞書に見られた百科事典的な情報はアメリカの Webster 系の辞書や The Century Dictionary (1889-91) に多分にみられるが、この特徴は Cyclopædia (1728) や Encyclopædia Britannica 初版 (1768-1771) に始まる百科事典に引き継がれ、辞書とは別の道を辿っていく。

二折り判は 1810 年 10 版まで刊行された。しかし、それでこの辞書の命脈が尽きたわけではない。ジョンソンの辞典が始めた新基軸である、日常語の詳しい記述、(歴史順の) 引用例とそれに基づく意味記述、詳しい語法記述、百科事典の情報ではなく言葉そのものの情報の記述は、英語最大の辞書 A New English Dictionary (1884-1928) に引き継がれ、また、私たちが使う現代の辞書にも生き続けている。

参考文献

- 寺澤芳雄. 1985.『Johnson「簡約英語辞典」解説』研究社。
永嶋大典. 1974.『英米の辞書』研究社。
林哲郎. 1968.『英語辞書発達史』開文社。

谷 明信 (たに あきのぶ)

関西学院大学教育学部・言語コミュニケーション文化研究科教授 (兵庫教育大学名誉教授)、PhD (グラスゴー大学)、FRSA。
研究テーマ: 英語史、特に中英語・初期近代英語の語彙と文体。

バッハが読んだ『カロフ聖書』



院長・神学部教授 中道 基夫

神学者ヨハン・セバスチャン・バッハ

アイゼナハ、1521年にローマ・カトリック教会から異端として破門されたルターが神聖ローマ帝国からの迫害から身を隠し、聖書のドイツ語訳に取り組んだヴァルトブルク城がある町として有名である。それから約160年後、ヨハン・セバスチャン・バッハは、1685年にこのアイゼナハで生まれ、ドイツのプロテスタント教会、ルター派神学の影響の中で育ち、数々のバロック音楽、教会音楽を生み出したのであった。

ヨハン・セバスチャンが生まれる以前から、バッハ一族は、アイゼナハ周辺で公式の式典や教会で音楽を演奏する名門職業音楽家として活躍していた。父親のアムブロジウスは、アイゼナハの職業音楽家を監督する立場に就任し、各式典や教会での演奏に演奏家を派遣する役割を担っていた。その末っ子として生まれたのが、ヨハン・セバスチャンであった。ヨハン・セバスチャンはバッハ一族という音楽的に恵まれた環境の中で、様々な音楽や楽器にも触れ、一族の職業を継ぐべく音楽の英才教育を受けていた。

バッハが、「音楽の父」と呼ばれるほど天才的かつ後世に多大な影響を残した音楽家であることは衆知のことである。ただ、その死後、バッハの作品は世の中では忘れ去られた存在となってしまう、もう一度息を吹き返すのは、1829年にメンデルスゾーンによる『マタイ受難曲』の再演以降のバッハ・ルネッサンスを待たなければならなかった。これをきっかけにフィーリプ・シュピッタ『J・S・バッハ』（全2巻、1873-1880年）という古典的研究書も著されるが、バッハの作品の本格的な研究が始まるのは20世紀後半になって

からのことであった。その際、バッハの作品は、市民音楽としてよみがえったために、音楽家としてのバッハの評価や研究はよく知られたものである。しかし、バッハは教会の礼拝で演奏する宗教音楽家としての活躍も看過できず、特に教会カンタータの作曲において豊かな神学的作業を成し遂げ、礼拝の一部を構成していた教会カンタータは説教に優るとも劣らないメッセージ性を持ったものであった。この教会カンタータは、音楽作品としてだけではなく、神学的作品として優れたものであり、バッハの信仰・神学理解抜きでは理解できないものである。

バッハがどのような信仰・神学理解を持ち、それがバッハの作品にどのように影響しているのかを解明しようとしても、バッハ自身が神学的著作を残しているわけではない。バッハがどのような神学的影響を受けたかを知るには、バッハがどのような神学書を読んでいたか、つまりバッハの蔵書が重要な手がかりとなる。そのために、バッハの遺産目録をもとにバッハの神学的蔵書集“*Bachs theologische Bibliothek : eine kritische Bibliographie*”が再構成され、ルターの著作を中心に81冊の文献が名を連ねている。ただ、その中で現物として残っているのが、ルター訳ドイツ語聖書“*Die heilige Bibel nach S. Herrn D. Martini Lutheri deutscher Dolmetschung und Erklärung*”である。この聖書には神学者カロフによって注解が加えられているため『カロフ聖書』と呼ばれている。この『カロフ聖書』が限定1,000部のみ復刻され、関西学院大学図書館に所蔵されている。



『カロフ聖書』復刻版 全3巻

教会カンタータとその神学的理解

カンタータとは、ラテン語の“cantare”（歌う）を語源とする言葉で、複数の声楽パートと楽器によって演奏される多楽章の作品形式の一つである。カンタータと一口に言っても、世俗カンタータと教会カンタータとの違いもあり、また様々な作曲家が教会カンタータに取り組み、時代によって様々な形式に発展していった。バッハの教会カンタータは主として話すように歌うレチタティーボと叙情性豊かな独唱曲アリア、伴奏を行う通奏低音、ルター派の教会賛美歌であるコラールによって構成された一つの神学的テーマを持つ声楽曲である。バッハは約 300 曲に及ぶ教会カンタータを作曲したと言われているが、現在残っているのは 200 曲（BWV1-200）である。ただ、いくつか真贋が疑わしいものもある。

教会カンタータの演奏は、祈祷や聖書朗読、説教等と同様に、礼拝の一連の流れを構成するものであった。教会には教会暦と呼ばれるキリスト教独自の暦があり、このカレンダーに従って礼拝主題と、礼拝の中で読まれるべき聖書箇所が定められている。それゆえ、教会カンタータもこの日曜日の礼拝の主題や聖書の箇所を反映させたものでなければならない。また、礼拝で演奏される教会カンタータを勝手

な神学的解釈によって作曲することは許されておらず、当時のルター派正統主義に基づいたものでなければならなかった。教会カンタータの歌詞は当時の歌詞集の中から選定し、また必要に応じて改訂し、それに曲をつけている。そこに、既存のコラールを自由に組み込んで作られているため、教会カンタータを神学的に理解するためには教会暦のテーマ、聖書日課に定められた聖書の理解、歌詞の内容、その選定の基準、さらには詞の改訂の意図を理解しなければならない。

例えば、有名な教会カンタータの一つである BWV140 “Wachet auf, ruft uns die Stimme”（目覚めよ、と われらに呼ばれる物見らの声）は、1731 年 11 月 25 日、三位一体後第 27 主日礼拝に演奏されたカンタータである。この日は、イエス・キリストの降誕を待ち望む待降節（アドベント）の直前の教会暦の最後の日曜日である。この日の礼拝に定められた聖書日課は、マタイによる福音書 25 章 1～13 節「十人のおとめ」のたとえ話とテサロニケの信徒への手紙一 5 章 1～11 節であった。マタイによる福音書のテキストは、婚礼に奉仕する 10 人のおとめがいて、5 人は目を覚まして到着が遅れている花婿を待っていたが、他の 5 人は眠りこんでしまった。目を覚ましておれなかった 5 人は婚礼の席に入れてもらえなくなってしまったというたとえ話である。ここで、花婿はイエス・キリスト、この婚礼の席は最後の審判を象徴しており、いつ来るか分からない終末に目を覚まして備えていることの重要性が述べられている。テサロニケの信徒への手紙においても、同様に、終末に対する心構えが語られている。この聖書の主題をどのようにカンタータとして表現するかがバッハに課せられた課題である。

まずバッハは、フィリップ・ニコライの「目覚めよと呼ぶ声あり」という 3 節からなる詞を選び、その 3 つの節に挟ま

れるように、2つのレチタティーボとアリアを配置している（コラル、レチタティーボ、アリア、コラル、レチタティーボ、アリア、コラル）。この曲の内容は、聖書そのものとは違った側面を見せており、バッハの聖書解釈が伺える。花婿の到着を前に眠りこけてしまったおとめの愚かさを非難するわけでも、また目覚めて準備をしていたおとめの賢さを賞賛しているわけでもなく、花婿たるイエス・キリストを待ち受ける花嫁たるキリスト者の喜びを表現しているのである。まず、第1のコラルは「目覚めて、主を待ち望め」と呼びかける。そこにテノールが歌うレチタティーボが、教会が娘たち（信徒たち）に「起きて、主をお迎えなさい」と呼びかける。その後のアリアでは、もはやおとめたちではなく、花嫁にスポットが当てられ、花嫁の声としてのソプラノと花婿たるイエス・キリストのバスが登場し、それぞれが別々に婚礼を待ちわびる思いを綴っている。第2のコラルは、その祝福に満ちた婚礼にわたしたちも参加しようと呼びかける。その後、イエスを演じるバスのレチタティーボは、花嫁に対する思いを語る。その後のアリアは、ソプラノが演じる花嫁（人間の魂）とバスが演じる花婿（イエス・キリスト）が出会い、お互いの愛とその喜びを語り合う。そして最後のコラルでは、この婚礼（終末）に参列したキリスト者（礼拝の参加者）の喜びが歌われている。このカンタータのテーマならびに構成の素晴らしさもさることながら、それをいかに音楽的に表現しているかという所にバッハのカンタータの神髄があると言っていい。

しかし、カンタータは音楽としてだけでなく、神学としても十分に評価できるものであり、また神学研究の対象となる。具体的には、このカンタータ（BWV140）の花嫁と花婿のアリアは「花嫁神秘主義」と呼ばれる神学を反映したものである。このカンタータ全体には神のイスラエルに対

する愛を人間の愛の関係で表現した旧約聖書の「雅歌」の言葉が散りばめられている。そして、6番のアリアは、人間の魂：「わたしの友よ、あなたはわたしのもの」、イエス「そして、わたしはあなたのもの」、二人：「わたしたちの愛はなにもものにも引き裂かれることはない。わたしはあなたと天国で共にバラを味わおう。そこでは喜びが満たされ、そこには至福がある」と歌っている。これは、まさに愛による神との合一を表現したドイツ神秘主義の一つの特徴である花嫁神秘主義に基づくものである。他にも優れた神学的思索が散見され、それを音楽的に表現するという偉業が成し遂げられている。それだけに、バッハのカンタータ研究においては、バッハの信仰・神学理解は必須のものであると言える。そこで、その研究の大きな鍵を握るのが、バッハの蔵書である。その中でも、バッハが実際に読み、書き込みをし、バッハの蔵書の中で唯一現存する書物である『カロフ聖書』は、非常に貴重な史料である。

『カロフ聖書』

ただ、『カロフ聖書』が我々の目に触れるようになったのは、1934年のことであり、正式に研究の対象として論文で紹介されたのが1970年のことである。この論文では、この聖書が本当にバッハの蔵書であるかどうか問われた。聖書の中のバッハのサイン、日付、コメント、アンダーライン、そこで使われたインク、鉛筆等の科学的な分析によって、この聖書が、バッハ自身が所有していた聖書であることが検証されたわけである。

では、『カロフ聖書』とはどういう聖書であろうか。1681年から1682年にかけて出版された3巻からなるルター訳の聖書で、ヴィッテンベルクのルター派正統主義の神学者アブラハム・カロフ（Abraham Calov 1612-1686）が聖書

の語句にルターの著作からの解説やカロフ自身の注解を加えたものである。標題紙標題には、「世界の創造から 5681 年目にあたるキリストの年 (1681 年) に、D. アブラハム・カロフが多大な労力と費用をかけて、精緻に書き上げたもの」と記されている。



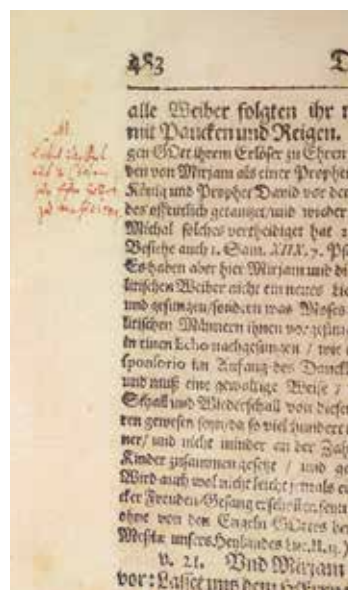
『カロフ聖書』復刻版 第1巻 標題紙
右下にバッハの直筆サイン

この聖書には、バッハ自身のいくつかの書き込みがある。その一つとして、出エジプト記 15 章 20 節の左側に “Erstes Vorspiel auf 2 Chören zur Ehre Gottes zu musiciren” (最初の前奏、神を讃えるために演じられた二つの聖歌隊における) との書き込みが見られる。二つの賛歌とは、出エジプトを経験したミリアムの勝利の歌とミリアムの後から踊りながらついていった女性たちを指すものと思われる。この記事にバロック音楽に見られる多声音楽の源を見ているのであろうか。

その他の書き込みも見られるが、この書き込みの意味を解明することはバッハ研究の重要な取り組みである。

しかし、そのような専門的な研究のためだけでなく、復刻版ではあるが、実際にバッハが所有し、それを読み、カ

ンタータの作曲に向けて神学的な思索を行い、書き込みをしたこの『カロフ聖書』に触れるとき、ドイツと日本、そして 300 年ほどの時空を越えて、バッハに出会うことができる。バッハがカンタータを演奏する礼拝へと導かれる。説教者でもあるわたしは、この聖書を開いたとき、バッハの豊かな聖書の知識と信仰が立ち上がり、バッハから「わたしがカンタータを演奏する礼拝で、あなたはどのような説教をするのか」という問いかけを受けた思いになった。



『カロフ聖書』復刻版 第1巻 p.483、出エジプト記 15 章 20 節に関する書き込み

参考文献

- フリードリヒ・スメント／パウル・ミース著／角倉一朗／高野紀子訳『バッハのカンタータ』、白水社、1980 年。
樋口隆一『バッハ カンタータ研究』、音楽之友社、1987 年。
飯島隆「バッハノート：カロフの聖書」、『盛岡大学紀要 8 巻』、盛岡大学、1989 年、43-51 頁。
飯島隆「バッハノート：カロフの聖書 (II)」、『盛岡大学紀要 9 巻』、盛岡大学、1990 年、77-88 頁。
クリストフ・ヴォルフ／トン・コープマン編著・磯山雅監訳『バッハ＝カンタータの世界 I・II・III』、東京書籍、2001・2002・2002 年。

中道 基夫 (なかもち もとお)

関西学院大学神学部教授。関西学院大学大学院神学研究科博士課程前期課程修了。神戸栄光教会伝道師、福井・城之橋教会牧師・城之橋幼稚園園長、ドイツ・ヴェルテンベルク州教会宣教協力牧師、ハイデルベルク大学神学部留学 (2010 年神学博士学位取得) を経て現職。2022 年 4 月から関西学院院長。著書：『現代ドイツ教会事情』(キリスト新聞社)、『天国での再会 日本におけるキリスト教葬儀式文のインカルチュレーション』(日本キリスト教団出版局) 他。

こんな風につかっています
私の電子資料活用事例

vol.9

データベース Religions of America の魅力

法学部教授 大宮 有博

歴史学の研究者にとって史料集めは、時間も手間もかかるが、恵まれた時間である。あるアメリカ宗教史の若手研究者は、アメリカの図書館や古本屋をまわって 19 世紀に 1 ドルもしない値段で道端のスタンドで売られた小冊子の小説を探し回った。当時の庶民の間に広がっていた反カトリック感情の片りんを探し出すためである。

私も、1970 年代にセントルイスにある神学校で起きた教員・学生によるプロテスト運動の手がかりとなる貴重な史料を、たまたま別の調査で訪れた図書館で見つけたことがある。この時は畑に隠された宝を見つけた農夫のような気分であった。

史料を集めるために研究者は、各地の図書館や博物館のアーカイブ、古本屋、役所や教会などの資料ファイルを探し回る。何回も現地を往復する交通費だけでも大変だ。ここまでやってるのに、「探すのをやめた時 見つかることもよくある話で」ある。

宗教史だけでなく歴史学の研究者は、史料（手紙や公式記録、写真、新聞や雑誌の記事）をとにかく集めると、次にキーワードや時系列ごとにフォルダに入れて整理する。フォルダの中身は関連あるなしで入れ替えたり、フォルダの順番を入れ替えたりする。そして、史料を読み込み分析する。

さて、関西学院大学図書館は、2020 年 12 月、データベース「Religions of America」を導入した。これを導入したのは、関学が日本で最初である。このデータベースによって、アメリカ宗教のみならずアメリカ史全体の史料収集の質が向上した。



データベース「Religions of America」トップページ

このデータベースは、生の資料がキーワードのついたフォルダに入った状態である。資料そのものには何の注釈も解説もついていない。電文や手紙、新聞の記事がばさばさ入っていて、それをブラウジングしながら、プリントアウトして整理することができる。キーワード検索でボンと見つかることは現時点では少ない。むしろ、ファイルを一つ一つのぞくことで発見がある。

南北戦争前に奴隷廃止運動に揺れたレーン神学校（Lane Theological Seminary）についての調査をこのデータベースを活用して行っていたら、偶然、四重の福音（The Fourfold Gospel）を提唱した A・B・シンプソン（Albert Benjamin Simpson）の伝記など彼に関する史料のファイルが出てきた。日本ではあまり研究されていない人物である。



「The Fourfold Gospel」の検索結果

またアメリカ政治や文化を研究する方も、このデータベースを検索すれば、意外な史料が出てくる。なぜなら政治的判断に宗教が関わる事例は多いからだ。

この 2 年間、史料ハンター（歴史学者）は野に行けず、研究は滞る日々である。様々なネットに公開されたアーカイブやデータベースが、史料ハントの野となってくれている。このデータベースも史料ハントの広大な野である。

Religions of America とは

「Religions of America」はアメリカの新興宗教研究家、ゴードン・メルトン（J. Gordon Melton）の収集資料を核とする戦後アメリカの宗教に関する最大の多宗派コレクション「American Religions Collection」を基軸としたアーカイブコレクションです。多様なアメリカの宗教事情を捉えるため、多くの資料を集積しています。



図書館をもっと活用してもらうために — 大学図書館広報チームの活動紹介 —

大学図書館運営課課長補佐 井上 昌彦

広報チームの概要

関西学院大学図書館では、利用者の皆さんに図書館を活用してもらおうと、日々さまざまな取り組みをしています。特に学生さんに対しては、少しでも図書館のことを知ってもらおうと、広報でも工夫や改善を続けています。

ここでは、そんな取り組みの一部を、ご紹介したいと思います。

図書館には「広報チーム」があり、主に学生をターゲットとして、「利用促進」、「資料紹介」、「イメージ向上／定着」の3点を目的に、年間を通じて広報活動を行っています。

すべてのキャンパスで活動を行えるよう、広報チームは西宮上ヶ原、西宮聖和、神戸三田の各図書館の若手を中心とした職員で構成されています。

Twitter の活用

広報チームが特に力を入れているのが、Twitter です。Twitter では「利用促進」や「資料紹介」のために、開館情報やサービス案内といった日常のお知らせはもちろん、レポートお役立ち情報、特集コーナー、期間限定で読める電子ブックの案内など、継続的に発信しています。また、直接的に役立つ情報ばかりでなく「イメージ向上／定着」なども念頭に、図書館の蔵書数、OPACデータの作成プロセス、館内外のアート作品などについても、ツイートしています。日頃目にしにくい図書館の一面も知ってもらうために、こうした毛色の違うツイートも織り交ぜています。

これまでに最も注目を集めたツイートは、4.9 万件もの「いいね」を頂きました（右写真参照）。ご関心があれば、「関学図書館付箋」などで検索してみてください。

こうして図書館員があれこれ工夫しながら発信するツイートは、Twitter アカウント @KG_Lib にてご覧になれます。このページのQRコードからアクセスできますので、ぜひフォローしてください。役立ったり興味深い内容だったときは、ぜひリツイートや「いいね」をお願いします。

Web サイトの活用

Web サイトでの発信・管理も、広報チームの仕事です。

現在の Web サイトは、情報検索ツールとして活用頂くことをコンセプトに、OPAC やデータベースへのアクセスをスムーズにするなど、2020 年に全面リニューアルしたものです。

EVENT や PICK UP のページも同時に立ち上げており、自宅から電子ブックなどを使う方法を紹介したり、就活生のための図書館活用術などを紹介したりしています。

ときには、本学が力を入れている AI についての教員インタビューや関連図書リストを載せたり、大学図書館長のメッセージを掲載したりして、利用者の関心を惹くよう努めています。

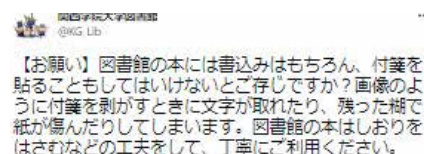
最後に

今回は紙面の都合もあり、Twitter と Web サイトの活用に絞ってご紹介しましたが、いかがでしたでしょうか？

皆さんが何気なくご覧になっているニュースや情報の裏には、大学図書館をもっと知って欲しい、活用して欲しい、という図書館員の願いがあります。大学図書館からのニュースやツイートを見かけたときは、こうした図書館員の取り組みにも思いを巡らせながら、ご覧くだされば嬉しい限りです。

これからも広報チームは、幅広く情報発信に努めます。Web や SNS を積極的に使っていきたいと考えていますので、ご意見やご要望をぜひお聞かせください。

（筆者の所属は 2021 年度のものの）



反響が大きかったツイート
(写真は廃棄処分をする本でサンプル用に作成したもの)



大学図書館 Web サイト



Twitter アカウント
@KG_Lib

午後0:40・2020年12月4日・Twitter Web App
2.5万 件のリツイート 1,021 件の引用ツイート 4,975 件のいいね

大学図書館の 新型コロナウイルス感染症対策



大学図書館

2019年12月に中国の武漢市で新型肺炎が報告されてから、新型コロナウイルスは瞬く間に世界中に広がった。2020年1月中旬に初めて感染者が確認された日本では、2月下旬に安倍首相（当時）が全小中高校などに臨時休校を要請、3月下旬に東京オリンピック・パラリンピックの延期が決定、4月上旬に安倍首相が全世界に布製マスク配布を表明、また同月7日に政府は兵庫県や大阪府を含む7都府県に緊急事態宣言を発出（後に全国に拡大）等、新型コロナウイルスへの警戒が急激に高まった。感染を避けるため「新しい生活様式」が提示され、三密（密集、密接、密閉）回避、マスク着用、手洗い、手指消毒などが日常的になり、生活や社会が激変した。大学もまた、入構、授業、課外活動、イベント、窓口業務、各種サービス等、様々な局面で深刻な影響を受けた。

関西学院大学は、2020年1月末に「新型コロナウイルスに関する緊急対策本部（のちに新型コロナウイルス感染症対策本部会議に名称変更）」を設け、授業のあり方や、学生への支援策、キャンパス入構禁止措置、キャンパス内施設の利用、活動制限レベルなどについて検討を行った。大学図書館もその一員として、図書館サービスの対応を大学と連携を取りながら決定していった。本稿では、西宮上ヶ原大学図書館の新型コロナウイルス感染症対策を中心に、2021年12月末までの図書館サービスおよび館内業務における取り組みの概要を紹介する。

図書館サービス

2019年度末に大学は卒業式および入学式の中止、春学期開始当初の全授業休講を発表した。2020年4月7日に兵庫県や大阪府に初めての緊急事態宣言が発出され、県・府からそれに伴う休業要請（～5月6日）が出たことから、大学は事務室の窓口業務停止、学部学生・大学院生・一般の入構禁止、原則オンライン授業実施（4月21日～）等を決定した。大学図書館は4月9日から6月16日まで臨時休館となったことから、在宅利用が可能な電子ブック・データベースの紹介、図書郵送貸出サービスの開始（郵送料は利用者負担）、学部1年生対象「文献の探し方講習会」の代替動画提供など、非来館型サービスの充実を図った。

2020年7月に大学は地域社会や学内感染状況の変化に応じて各活動の再開・制限を判断するための活動制限レベル（基準）を策定した。このレベルの変更に応じて、大学図書館は開館日、開館時間、利

用対象者、座席数、滞在時間、提供サービスなどを段階的に制限もしくは緩和するなど、慎重な対応を重ねた（具体的な取組は一覧参照）。大学の活動制限レベルに応じた大学図書館独自の活動再開基準も設け、それを軸に対応を決定した。2021年10月に大学の活動制限レベルは4から2に引き下げられ、大学図書館の制限はほぼ解除されたが、閲覧席数やグループ閲覧室のグループ利用は引き続き制限を設けた。また2021年度は近隣住民を対象とした一般公開制度は募集を取り止めた。

【参考】大学の活動制限レベルの変化

（大学が活動制限レベルを公開した2021年3月から12月まで）

2021年 3月 1日	レベル3に引き下げ
2021年 4月12日	レベル4に引き上げ
2021年 6月28日	レベル3に引き下げ
2021年 8月30日	レベル4に引き上げ
2021年10月18日	レベル2に引き下げ

館内業務

2020 年 4 月から 6 月にかけて職員の勤務は、全員在宅勤務や複数チーム制による交替勤務（時差勤務含む）の体制が取られた。西宮上ヶ原キャンパス大学図書館は運営課と利用サービス課の 2 課体制で業務を行っているが、一方の課に感染者が出た際、もう一方の課に感染が広がらないようにするため、両課の間に仕切りを設置し、館内動線や出入口を分け、課員間の接触を完全に無くす措置を取った。7 月以降は通常勤務となり両課職員の接触は可能になったが、引き続き机間の仕切りは使用し、マスクを外しての会話も禁止とした。

選書業務では、オンライン授業等のサポートのため、電子資料の選書を大幅に強化した。具体的には、まず、在宅勤務中の 2020 年 5 月よりレポート・論文の書き方、英語多読本、シラバス掲載図書等の電子ブックを重点的に補充した。当館では、4 月時点で、学生の学修に活用できる日本語の電子ブック約 1.5 万タイトルを提供できていたため、利用担当が行った活用促進の広報に合わせ、タイトルリストを整備し、Web サイトで公開し、教員への案内も行った。

2020 年度はこれらの日本語の電子ブックについて、出版社と提供元からの大学等への支援として、同時アクセス数を 50 とする等の拡大キャンペーンが行われたため、新規の資料の選定も重点的に行った。2020 年 5 月から 2021 年 12 月末までに大学図書館で選定し新規追加した日本語の電子ブックは、約 3,400 タイトルである。また、岩波書店の新書や文庫を中心とする「現代人の教養」サブスクリプションパッケージ 500 タイトルを 2020 年 10 月より 2021 年度末までの予定で提供を始めた。それ以外の電子資料では、新聞データベースの同時アクセス数を増やすなどの対応を行った。

なお、在宅勤務中も選定方法を工夫することにより、全キャンパスにおいて、冊子体資料の選書も通常通り、週単位、月単位で頻繁に行ったため、開館

後も新刊書を中心とする新規選定資料の提供を行うことができた。



電子資料の学外アクセスを紹介した Web コンテンツ

受入業務では、感染防止のため図書・資料の搬入を予約制とした。特に厳戒態勢時は、業者や学部担当者に図書・資料の図書館通用口（運営課用出入口に指定）までの搬入、通用口での内線電話連絡および即時退館を依頼し、時間を置いてから運営課職員が取りに行くなど、館外者との接触を極力控える工夫をした。キャンパスの入構制限が部分的に緩和された 2020 年 9 月中旬以降、コロナ禍以前のように業者や学部担当者が館内に図書・資料を搬入できるようになったが、密を避けるため予約制は継続した。

以上が 2021 年 12 月末までのコロナ禍における大学図書館の新型コロナウイルス感染症対策の概要である。幸いにも臨時休館は 2020 年 4 月から 6 月の一度のみで、その後は制限を設けつつ開館を続けたが、コロナ禍以前の状態には戻らなかった。予断を許さない状況が続くが、各現場において感染対策に取り組みながら、図書館サービスおよび館内業務を行っていくことが引き続き求められている。

西宮上ヶ原キャンパス大学図書館の図書館サービスにおける具体的な取組一覧

(2020 年 4 月～2021 年 12 月末。表内の「現在」は 2021 年 12 月末現在)

1. 開館状況	臨時休館	2020.4.9 ～ 2020.6.16 ただし、5.21 ～ 6.16 は大学教員と大学院生は利用可 (平日 8:50-16:50 図書館内滞在時間は 1 時間以内)
	特別開館 (時間限定)	2020.6.17 ～ 9.22 平日のみ 8:50-16:50 開館 2020.9.23 ～ 10.31 平日と土曜日 8:50-18:30 開館 2020.11.1 ～ 2021.1.29 授業実施日の平日は 8:50-20:00 開館、 土曜日は 8:50-18:30 開館、授業なし日 は平日・土曜日ともに 8:50-18:00 開館
	通常時間開館	2021.1.30 ～現在 ただし、2021.10.17 までは入館制限を行っていたため、「限定開館」 としていた。
2. 開館時の施設・ 設備の利用制限	閲覧席	2020.6.17 ～ 9.22 席数の制限は設けなかったが、利用者の 図書館内滞在時間を 1 時間に制限 2020.9.23 ～ 2021.3.14 閲覧可能座席数を半分に制限 2021.3.15 ～ 4.11 制限なし 2021.4.12 ～現在 閲覧可能座席数を半分に制限
	館内備付 PC	2020.4.9 ～ 2021.3.14 利用不可 2021.3.15 ～ 4.11 利用可能 (座席数を半分に制限) 2021.4.12 ～ 10.17 利用不可 2021.10.18 ～現在 利用可能 (座席数を半分に制限)
	貸出ノート PC	2020.4.9 ～ 2021.3.14 利用不可 2021.3.15 ～ 4.11 利用可能 2021.4.12 ～ 6.27 利用不可 2021.6.28 ～ 8.30 利用可能 2021.8.31 ～ 10.17 利用不可 2021.10.18 ～現在 利用可能
	視聴覚資料および 視聴覚ブース	2020.4.9 ～ 2021.3.14 利用不可 2021.3.15 ～ 4.11 利用可能 (座席数を半分に制限) 2021.4.12 ～ 6.27 利用不可 2021.6.28 ～現在 利用可能 (座席数を半分に制限) ※ヘッドフォン用耳当てカバー提供。個人のイヤホン使用可

2. 開館時の施設・設備の利用制限	グループ閲覧室	2020.4.9 ~ 2021.3.14 2021.3.15 ~ 4.11 2021.4.12 ~ 10.17 2021.10.18 ~ 現在	閉室 机の配置を変えて一般閲覧席として開放 閉室 利用可能（定員を4分の1に制限）
	研究個室	2020.4.9 ~ 2021.3.14 2021.3.15 ~ 4.11 2021.4.12 ~ 6.27 2021.6.28 ~ 現在	利用不可 利用可能（1日1室1名に制限） 利用不可 利用可能（1日1室1名に制限）
	図書館ホール	2020.4.9 ~ 6.16 2020.6.17 ~ 現在	利用不可 収容人数を半分に制限
3. 入館制限	学内者	2020.6.17 ~ 9.22 2020.9.23 ~ 2021.3.14 2021.3.15 ~ 4.11 2021.4.12 ~ 6.27 2021.6.28 ~ 現在	学部生・短大生は事前予約制で入館可 教員と大学院生は予約不要で入館可 職員と学内高・中の生徒は入館不可 学部生・短大生・教員・大学院生は予約不要で入館可 職員と学内高・中の生徒は入館不可 学内者はすべて入館可 学内高・中の生徒のみ入館不可 学内者はすべて入館可
	学外者	2020.4.9 ~ 2021.10.17 2021.10.18 ~ 現在	卒業生や一般公開利用者、相互利用を含め学外者はすべて入館不可 学外者も入館可 (2021年度は一般公開利用者は募集せず)
4. サービス	閲覧	「3. 入館制限」と同じ期間・対象者で運用 入館可の利用者のみ閲覧可	
	来館貸出	「3. 入館制限」と同じ期間・対象者で運用 入館可の利用者のみ貸出可	
	郵送貸出	2020.5.8 ~ 2021.3.31 送料利用者負担で実施 2021年度春学期・秋学期 オンライン受講を申請して認められた学生のみを対象として実施（送料利用者負担）	
	館内複写	「3. 入館制限」と同じ期間・対象者で運用 入館可の利用者のみ館内複写可	
	レファレンス	対面は、「3. 入館制限」と同じ期間・対象者で運用 WebサイトのEメールレファレンスのフォームや電子メールでの問い合わせは随時対応	

4. サービス	相互利用 (学内・ 学外文献複写、 学外図書貸借、 学外閲覧利用)	・ OPAC 経由申込分 2020.4.9 ～ 6.7 全面受付停止 2020.6.8 ～ 6.16 学内文献複写は受付再開、学外相互利用は受付停止 2020.6.17 ～ 現在 全面受付再開 ・ オンラインフォームでの申込分 (OPAC 非対応者) 2020.6.1 ～ 6.16 学内文献複写のみ受付 2020.6.17 ～ 2021.3.20 学内・学外文献複写および学外図書貸借申込受付 (2021.3.21 からレファレンスカウンターでの対応を再開し、オンラインフォームでの申込受付を終了) ・ 文献複写物郵送サービス 2020.6.1 ～ 2021.3.12 学内文献複写物の郵送サービスを実施 (送料等利用者負担) 2020.6.17 ～ 2021.3.20 学外文献複写物の郵送サービス実施 (送料等利用者負担) ・ 他大学図書館等の閲覧利用 2020.6.17 ～ 現在 学部生・大学院生・教員が希望し、先方が許可すれば可
	電子資料の 学外アクセス	学内ネットワーク ID 所持者はコロナ禍以前から可
	その他	・ 電子ブックやデータベースを紹介する「Studying at home」を図書館 Web サイトで公開 ・ 新入生向け講習会の動画教材の作成・提供 (2020 年度春学期) ・ 申込教員の希望等に応じて、①対面、②対面と同時双方向オンラインの併用、③同時双方向オンラインのみ、④オンデマンド、の各形態で講習会を実施 (2020 年度秋学期、2021 年度)
5. 館内の感染防止対策 (上記 1～4 以外)	・ 利用者へのマスク着用等の感染防止の注意喚起 ・ 消毒液、使い捨てゴム手袋を設置 ・ カウンターに飛沫防止アクリル板を設置 ・ カウンターや自動貸出機前などに距離をとった待機位置指定表示 (フットプリント) を床に貼付 ・ OPAC 専用端末や、館内備付 PC、コピー機付近に、アルコール除菌ウェットティッシュを設置 ・ OPAC 専用端末のキーボードをウォッシュャブルに変更し、24 時間ごとにアルコール除菌ウェットティッシュで拭き取り ※ 2020 年度のみ ・ 返却資料を 72 時間 (後に 24 時間) 保管してから戻し配架 (予約がある資料はアルコール消毒を実施) ※ 2020 年度のみ ・ 講習会を実施する PC 室は、定員を半分に減らし、窓の開放とサーキュレーターを稼働	



写真で振り返るコロナ禍の西宮上ヶ原キャンパス大学図書館



アクリル板を設置した
1F 貸出・返却カウンター



閲覧席（壁向き）に変更した
グループ閲覧室



事務室 2 課間の接触を避ける間仕切り
（茶色の仕切りの手前が運営課）



隣と距離を開けた PC コーナー



利用を促進した自動貸出機と
密を避けるためのフットプリント



机間の仕切り（利用サービス課）



隣と距離を開けた閲覧席



入館者数から退館者数（退館時に IC カードリー
ダーをタッチしカウント）を差し引き、滞在者数を
定期的に確認



通用口を運営課用出入口に指定し、館外者には
内線電話で運営課に用件伝達を依頼。（利用
サービス課に用件がある館外者は利用者用出入
口を使用）



座席数を減らしたラウンジ



館外者による通用口奥の事務室エリアへの
立入を禁止

2020～2021年度

大学図書館の展示紹介



大学図書館運営課

西宮上ヶ原キャンパス大学図書館では、大学図書館が所蔵する図書・資料への理解を深めてもらうため、展示を実施している。2020年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため臨時休館や入館制限があったことから、例年よりも回数を減らし、春季および秋季の2回、エントランスホールにて企画展示を行った。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止による学術資料講演会の中止に伴い、例年秋に行われる特別閲覧室での特別展示も見合わせた(2021年度も同じ)。2021年度は学生の授業期間である春季・秋季に企画展示を、学生の休暇期間である夏季・冬季は大学図書館の諸活動を紹介する展示を、エントランスホールにて行った。2020～2021年度に実施した展示を紹介する。

2020年度

1. 春季～夏季企画展示

(2020年3月～9月)

「関西学院とヴォーリズ建築」

関西学院の魅力の一つとして、美しいキャンパスがある。1929年に原田の森(現在の神戸市灘区)から西宮上ヶ原にキャンパスを移転する際、建築家のウィリアム・メレル・ヴォーリズ(William Merrell Vories)によりキャンパスの全体設計、またスパニッシュ・ミッション・スタイルを基調とする各校舎のデザインなど、現在の関西学院の景観の基本が定められた。この展示では、関西学院やヴォーリズが手掛けた教会や住宅などの建築に関する資料およびヴォーリズの著書を集めた。



2. 秋季～冬季企画展示

(2020年10月～2021年3月)

「感染症と歴史」

全世界で新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が猛威を振るい、多くの感染者と犠牲者を出していることから、「感染症と歴史」をテーマとした。新型コロナウイルス感染症の拡大によって、テレワークやオンライン授業、ソーシャルディスタンスの推奨等、私たちの生活様式が一変したことから、人類が感染症を乗り越えてきた歴史に目を向けてもらえる展示を行った。大学図書館が所蔵する「天然痘」、「インフルエンザ」、「スペイン風邪」、「SARS(重症急性呼吸器症候群)」や「MERS(中東呼吸器症候群)」等、過去に流行した感染症に関する図書・資料を中心に紹介した。



2021年度

1. 春季企画展示 (2021年3月～5月) 「感染症について知る ー COVID-19 から学ぶー」

2021年度もなお、新型コロナウイルスの感染拡大状況が予断を許さなかったため、COVID-19 から感染症を知るという視点で、引き続き感染症に関する展示を行った。新型コロナウイルスをテーマにした図書を中心に集め、展示した。



2. 夏季・冬季常設展示 (2021年7月～9月、2022年1月～3月) 「大学図書館の図書分類法を知ろう +図書館コーナー紹介」

関西学院大学図書館は、デューイ十進分類法 (Dewey Decimal Classification) に基づき一部を改変した独自の分類法を採用している。大学図書館の分類に慣れ親しんでもらえるよう、夏季・冬季それぞれ各分類の図書を集めて展示した。同時に、夏季は日本の文化や習慣について英語または日英併記で書かれた本を集めたコーナー「Books on Japan」の図書を展示した。また、冬季は時事問題、資格・実用、趣味・娯楽の本などを集めたコーナー「ラウンジ」の分類紹介を行った。



夏季常設展示



冬季常設展示

3. 秋季企画展示 (2021年10月～2022年1月) 「キリスト教に親しむー建築を通してー」

キリスト教主義教育を掲げる学院として、キリスト教をより身近に感じてもらえるよう、教会建築をテーマにその美的な側面に焦点を当て、日本だけではなく、世界の教会や大聖堂の外観や屋内装飾を紹介した。



大学図書館の新しい取り組み 「AI 活用人材育成プログラム×大学図書館」コラボレーション

大学図書館利用サービス課

2021 年秋学期に関西学院大学が日本 IBM 社と共同開発した「AI 活用人材育成プログラム」とのコラボレーション企画を実施しました。

1. 特集コーナー「AI」の展開

3 キャンパスの大学図書館共通で、「AI」をテーマにした図書・資料を集めた特集コーナーを設置しました。『絵と図でわかる AI と社会』といった入門書から、Python に関する専門書、さらには『クララとお日さま』などの AI やロボットが登場する小説まで幅広く集めました。西宮上ヶ原キャンパス大学図書館の特集コーナーは“図書館員セレクト”でこれまで運営してきましたが、このコラボ特集においては、巳波弘佳副学長（工学部教授）をはじめとする「AI 活用人材育成プログラム」に携わる先生方にも選書にご協力いただきました。

2. 大学図書館 Web サイトでの PICKUP コンテンツ掲載

館内の特集コーナーで図書・資料を展示するだけでなく、大学図書館 Web サイトでも「AI」をテーマとした PICKUP コンテンツを2件公開しました。

①「巳波先生にききました！

AI 時代の情報検索と図書館」

(<https://library.kwansei.ac.jp/pickup/000288>)

「AI 活用人材育成プログラム」のプロジェクトリーダーとしてご活躍の巳波弘佳副学長に、情報検索のポイントやこれからの図書館についてお話を伺いました。「物理的な本も好きだ」とおっしゃる巳波先生から、AI 時代の図書館の役割について次のようなお言葉をいただきました。「これからの図書館は、紙も電子も含む多様な形態の情報のリソースを蓄積し、それらの情報をわかりやすく整理して提示する、リアルとバーチャルがクロスオーバーするポータルであり、それらの利用者たちが形成するコミュニティのプラットフォームと言えるでしょう。」

②「アイてる時間に AI 読んどく？」

AI に関する電子ブック 50 選」

(<https://library.kwansei.ac.jp/pickup/000291>)

いつでもどこでも学ぶことができるように、大学図書館が契約している電子ブックコレクションの中から、「AI」に関する 50 タイトルを選んだコンテンツです。単に電子ブックを紹介するだけでなく、大学図書館コミュニケーションキャラクター“AI ホンダくん”の AI ダジャレも随所に散りばめられています。



特集コーナーの書架（西宮上ヶ原）



特集コーナー付近のサイネージで「AI 活用人材育成プログラム」のプロモーション動画を投影（西宮上ヶ原）

THE
SCARLET LETTER,
A ROMANCE.

BY

HANIEL HAWTHORNE

関西学院大学図書館報『時計台』No. 90

2022年4月1日発行

編集・発行 関西学院大学図書館

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町1-155

TEL (0798) 54-6121

ISSN : 0918-3639

<https://library.kwansei.ac.jp/>

デザイン・印刷 兵田印刷工芸株式会社

時計台

2022 APR.
No.90